



最後まで笑顔を忘れなかったAさん



Aさんには認知症があり、引きこもりがちの生活でした。Aさんの事をご家族が心配して、介護保険サービスの利用を始めました。大病も患っていたため、最初は療養相談を行い、訪問看護が開始となりました。

一時は、うつ状態になり食事の量が低下していき、ご家族から「どう対応していいかわからない」と訴えがありました。家族全体が、暗く辛い時期と感じていましたが、介護サービスを利用するに連れて、少しずつ活気もみられ、Aさんに徐々に笑顔も増えていきました。

認知症は少しずつ進行し、ちょっと前の記憶すらない状態の時には、家族を困らせる行動や、怒りを全面に出してしまうこともありました。しかし、私たち訪問看護師には、いつも笑顔を振りまいて下さっていました。

そんなAさんが、進行性の病におかされ、余命いくばくもない状態に…。私たち訪問看護師は連日訪問して様子を診させていただきました。Aさんは、弱りゆくなかでも、笑顔で気丈に受け答えされます。

「全然大丈夫よ」と言いながら、吐いた直後でも「吐き気はないの」と忘れてしまうことが、功を奏する場面も多くありました。

Aさんの病状はさらに進行し、寝たきり状態となり、遠方に住む娘さんも来訪し、ご家族全員で介護を行いました。

Aさんは、娘さんに対して「あれ、いつ来たの？」と毎朝声をかけていたそうです。娘さんは「毎日が新鮮だわ」と笑っていらっしゃいました。

そんな介護生活が1か月ほど続き、Aさんの意識は、はっきりしない状態が多くなりましたが、訪問者には小さいうなずきや、時には笑顔もみせ

てくださいました。そして、見守る家族に対し「ちゃんと休んで」と気遣う声もきかれました。

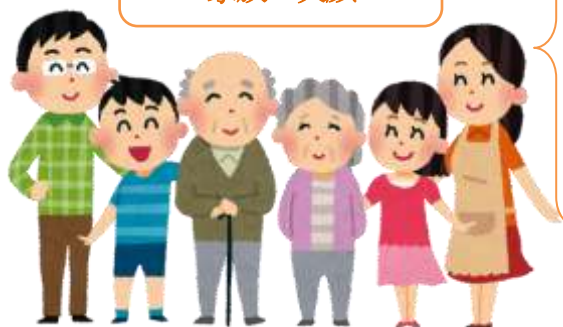
Aさんが旅立たれたのは、ご家族や親せきが遠方から集まった深夜、皆がふっと寝入った少しの瞬間で、誰も息をひきとる、その瞬間に立ち会うことはできませんでした。「ドラマみたいに…最後の言葉かけをしたかったのに…母らしいわ」と娘さんは泣きながらお話してくださいました。

Aさんへの訪問看護は10年間に及びましたが、振り返ると、いつも“笑顔”が思い出されます。同じことを繰り返してお話されるAさんですが、お話される内容は、楽しい話題がとても多く、私たちもたくさんの元気をもらうことができました。

訪問看護を利用されている方には長期利用になる方が増えています。利用者皆さんにそれぞれの人生やドラマを感じます。私たちも皆さんとの出会いからたくさんのことを学ばせていただいています。

令和の時代もより良い訪問看護が提供できるよう、スタッフ一同頑張っていきたいと思います。

みんなでつくろう
家族の笑顔



私達は皆様のホームナースです！
困りごとの解決をご一緒に考えます。

訪問看護のお問い合わせは 一之瀬訪問看護ステーション
電話 48-6615 まで